

第 51 回わたぼうし音楽祭 「作詩の部」 入選詩一覧

これからもよろしく

作詩：渡辺桃李（青森県八戸市・13 歳）

出会いは小学五年生

第一印象は白くて細くて

頼りなさげな感じがしていた

出会いは学校の廊下

つんとすまして頑固そうで

信用できないと思っていた

コトンコトンと リズムを刻み

あなたは私の前に行く

いつだって私を導いてくれる

今では頼りになる存在

一緒にいて恥ずかしいなんて

思ったりしてごめんね

外は光でまぶしくて

ぶつかりそうになる電柱に

先に気付いて教えてくれた

外の世界は二次元に見えて

落ちそうになる段差に

先に気付いて守ってくれた

コトンコトンと リズムを刻み

あなたは私の前に行く

いつだって私を導いてくれる

今では頼りになる存在

一緒にいて恥ずかしいなんて

思ったりしてごめんね

ありがとう 白杖さん

これからも どうぞよろしくね

十人十色～新しい1日が始まる～

作詩：北地恵（大分県別府市・58 歳）

見た目は同じでも 1 人 1 人

できることできないこと

違いがあるもの…十人十色

「あの人に出来るのに

なぜできないの？」

そんな事言わないで

「やれば出来る」なんて大嫌い

やる気がない訳じゃない

同じ名前前の障害だから？車椅子だから？

治る事はない出来る事も少ない毎日

でもね…

私にもできること

私にしかできないこと

きっとあるはず…

生まれつき見えなかった

手足が上手く動かず歩けなかった

名前は知っていても 物の形や大きさ

何センチ 何ミリなんて分からない

きれいな花 かわいい動物

雨の後の虹はどんな色なのかな？

あなたと私はどんな顔をしているの？

分からないのが当たり前

だけど…

私には目の代わりに耳と手

そして香りがある

読み書きは音声機能と

「お願いします」の MIX で

読むことも 書くことも出来る

何度か会えば 声を聞かなくても

足音を聞くだけで 誰か分かる

毎日聞こえてくる 色々な音や香りが

たくさんの情報を運んでくれる

テーブルには 携帯電話 お茶

リモコン達がいつもの定位置

私は伸ばした手で

そっと触って確かめる

片手で吹けるハーモニカで

好きなメロディーを

時々吹いて楽しむよ

食べたいものは自分で考えて

ヘルパーさんをお願い

頭の中にあるレシピは

味見をしながら変わっていく

今日もおいしく完成！！

私だけの特製レシピ

これが今の私にできること

「あの人に出来るのに

なぜできないの？」

そんなこと言わないで…

あなたにもできること

あなたにしかできないこと

きっとあるはず…十人十色

今日もまた

それぞれの新しい1日が始まる…

応援の鍵

作詩：武上悠希（大阪府大東市・15 歳）

苦しさに胸がつぶされそうで

「もう消えたい」と泣いた日もあった

夜の底で震えていた私たちは

それでも 夢を 希望を 捨てなかった

だって 心の奥に 小さな火があった

「やりたい」が光っていた

暗闇の中でも

その光だけは決して消えなかった

この世界で輝きたくて

だけど時に 人の視線が怖くて

立ちすくむ夜もある

「どう応援したらいいの？」って

不安に沈む声も聞こえる

大丈夫 明日は明日の風が吹く

周りの人は敵じゃない

そっと寄り添う 味方なんだ

雨の日が続いても

明けない夜はないように

私たちの困難にも 必ず朝が来る

だから 胸の熱意を掲げよう

その光は誰かの心に火をつける

応援の声は未来へ続く道

「ひとりじゃない」と気づく道

背中を押す手が

私たちの世界を広げていく

夢を叶えるための鍵は

応援してくれる人々の中にある

その鍵を集めて 未来の扉を開けよう

「やった！一歩進んだ！」「ついに叶えた！」

喜びが空へ舞いあがるその日まで

世界中へ届けたい 私たちの祈りを

歌声を 応援してくれるすべての人へ

この世界で

作詩：近藤己順（大阪府羽曳野市・43 歳）

ずっと悪いところを見せずに

いられたらいいのだけれど

そんなことを完璧にできる人はいない

わかっている

でも今の自分を好きって思いたくて

そんなふるまいのできる自分になりたくて

いつももがいている

この世界で輝きたくて

いつも走っている

理想の自分へ

きっといつかなれる

未来を信じて

強い自分になりたくて

自分と向き合ってきた

ずいぶん長い間

努力をした

少しずつ変わってきた気がするけれど

私の特性ではここまですが限界かな

でも諦めたくない

この世界の一員として

自分のやるべきこと

しっかりやりたくて

個性をつぶさないままで

しっかりと生きたいよ

誰もが生きやすい社会を

訴え続けたけれど

私は私で頑張らなければいけないことを

忘れてはいけない

ここから生まれた私のおもいを

伝えたい伝えたい届きますように

